

令和元年10月23日

二本松市議会議長 様

会派名 市政刷新会議

代表者名 野地 久夫



## 視察研修報告書

当会派において、下記により視察研修を実施しましたので報告いたします。

### 記

1 期 間 令和元年8月22日(木)～23日(金)

2 参加者 ①野地 久夫 ②佐藤 運喜

③鈴木 一弘 ④斎藤 徹

⑤平栗 征雄 ⑥佐藤 源市

3 視察地及び視察内容

別紙のとおり



# 市政刷新会議行政視察行程表

| 日次 | 月日      | 行 程  |
|----|---------|--|
| 1  | 8/22(木) | 【JR東北本線】 二本松駅 — 福島駅 — 仙台駅 — 盛岡駅 — 紫波中央駅 .....<br>6:51                      7:16/7:39                      7:59/8:06                      8:45/8:58                      9:17 |
|    |         | 【タクシー】 オガール紫波 — 紫波チップ工場 — 紫波中央駅 — 盛岡駅・市内(泊)<br>視察10:00~12:00                      視察13:00~14:00                      15:16                      15:37                        |
| 2  | 8/23(金) | 【バス】 宿泊先 — 滝沢市役所 ..... ビッグルーフ滝沢 — 盛岡駅 —<br>8:30                      視察10:00~12:00                      視察13:00~14:00                      14:50                             |
|    |         | 【やまびこ146号】 仙台駅 — 福島駅 — 二本松駅<br>15:29/15:43                      16:10/16:28                      16:51   |

## 【宿泊先】

ホテルメトロポリタン盛岡 Tel.019-625-1211 盛岡市盛岡駅前通1-44

## 【視察項目】

- ①オガール企画合同会社「オガールプロジェクトについて」
- ②滝沢市「第1次滝沢市総合計画について」

(別紙1-2)

# 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市 政 刷 新 会 議

氏 名 野 地 久 夫

- 月 日 令和元年8月22日
- 場 所 岩手県紫波町オガール企画合同会社
- 内 容 オガールプロジェクトについて

## ○ 視察・研修の感想

これからの100年を視野に入れた「新世紀未来宣言」の基、住民・事業者・市民団体・行政が一体となり、「紫波町環境・循環基本計画」を基に、約10年のプロジェクト事業で完成された循環型まちづくりに、補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進め、ホテルやバレーボール専用体育館、図書館、カフェ、産直マルシェなどが入居する施設を開設、「稼ぐインフラ確立」に感動した。

## ○視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

### 【オガールプロジェクト】

「オガールプロジェクト」は、JR紫波中央駅前の約10.7haを中心に、町民や民間企業の意見を伺い、紫波町公民連携基本計画の基、平成21年度から進めた紫波中央駅前都市整備事業が「オガールプロジェクト」。

都市と農村の暮らしを「<sup>たの</sup>しみ」、環境や景観に配慮したまちづくりを理念に、都市と農村の新しい結びつきを創造し、「暮らす、働く、学ぶ、集う、憩う、楽しむ」新



### 【オガールプロジェクト沿革】

|                              |
|------------------------------|
| H21年 2月 / 紫波町公民連携基本計画策定      |
| 3月 / 都市再生整備事業策定              |
| 6月 / オガール紫波株式会社設立            |
| H23年 4月 / フットボールセンター会場       |
| H24年 6月 / 官民複合施設オガールプラザ オープン |
| 8月 / 紫波町図書館開館                |
| H25年 10月 / オガールタウン21区宅地分譲開始  |
| H26年 6月 / 民設民営エネルギーステーション完成  |
| 7月 / 民間複合施設オガールベース完成         |
| H27年 5月 / 紫波町役場庁舎開庁          |
| H28年 12月 / 官民複合施設オガールセンター完成  |
| H29年 4月 / 設民営オガール保育園開園       |

しく豊かな魅力的な持続的に発展する街を目指し、補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進め、ホテルやバレーボール専用体育館、図書館、カフェ、産直マルシェなどの入居施設です。



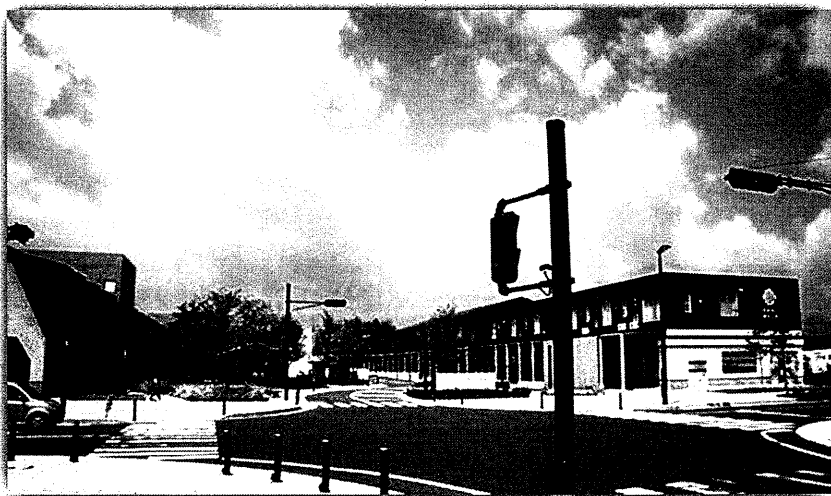
オガールプロジェクト研修状況

- ◆ オガール広場…紫波中央駅前に広がるオガールエリアのシンボリック芝生の場所。
- ◆ オガールプラザ…延べ5,800㎡2階建て、紫波町の木材をふんだんに使用した、図書館、子育て応援センター、産直、カフェ居酒屋、歯科、学習塾など官民複合施設。
- ◆ オガールベース…日本初のバレーボール専用体育館「オガールアリーナ」、ビジネスホテル、コンビニ、飲食店など民間複合施設。
- ◆ エネルギーステーション…町内産木質チップを燃料に、木質バイオマスボイラーを熱源に役場庁舎、オガールベース、オガールタウンへ熱供給。
- ◆ オガール保育園…民設民営保育園。
- ◆ 役場庁舎…PFI手法（BTO方式）で整備され、4か所の庁舎をまとめた。
- ◆ オガールセンター…教育サポート施設、小児科、病児保育、アウトドアショップ、スポーツジム、ベイカリー、美容室が入居する複合施設。
- ◆ オガールタウン…地元業者が地元木材80%以上使用で建てるエコハウス。エネルギーステーションからの熱供給によるエネルギー消費量抑制。
- ◆ 岩手県フットボールセンター…日本サッカー協会公認グラウンド、様々なイベントの開催による交流人口の増加や経済効果を発揮。

### 【補助金に頼らない町づくり】

紫波町の「公民連携手法」は

- ①テナントを決める。
- ②建設規模、建設費の算出。
- ③特別目的会社が施設建設。  
(建設費用コスト削減)
- ④公共施設部分を紫波町に売却。
- ⑤売却費用以外は銀行の融資や町と政府系金融機関の出資で賄う。補助金に頼らないまちづくりを進めている。



## 【紫波町の「循環型まちづくり」】

### 紫波町環境・循環基本計画

#### ◎資源循環のまちづくり

- ・有機資源循環…循環型農業の普及（完熟たい肥利用・地産地消の推進）
- ・森林資源循環…森林資源の活用と森林整備
- ・無機資源循環…3R運動、ゴミ分別、マイバック運動の推進

#### ◎環境創造のまちづくり

- ・里地里山の保全創造…生物多様性の推進、環境に配慮した農地づくり
- ・水環境の保全…河川水質保全、下水処理の普及、森林水源涵養の保全
- ・温室効果ガス削減。環境負荷削減…自然エネルギー活用、省エネ取組み、森林力向上
- ・安全安心生活循環の向上…清掃活動の充実、衛生環境の整備

#### ◎環境学習のまちづくり

- ・環境学習の推進、自然体験学習の推進
- ・環境学習による伝統文化の継承、地域知識技術の伝承

#### ◎交流と協働のまちづくり

- ・協働が生み出す交流促進、環境循環の情報の共有化

### 紫波町「循環型まちづくり」の取組

- ★平成 13～16 年度エコ3センター整備…堆肥、粉炭、木酢液、木質ペレットを製造。
- ★平成 13 年 J R 紫波中央駅完成…町産無垢材・間伐材使用、腰板に天然渋柿塗料使用
- ★平成 14 年上平沢小学校完成…全て町内無垢材使用、児童用机・椅子を町内産木材使用暖房にペレットボイラーを導入し、森林資源循環、地球温暖化対策に配慮する。
- ★平成 15 年保育所統合…保育所新築を全て町産木材使用する。
- ★平成 18 年星山小学校新築…町産木材をふんだんに使用、木製机、椅子、ペレットボイラーを導入する。
- ★平成 17 年環境・循環 P R センター完成…多くのボランティアや町内業者の協力のもと焼失した公共施設の木材を再加工して再使用、暖房はペレットストーブ使用。
- ★平成 24 年オガールプラザ完成…2階建て 5,822 m<sup>2</sup>、地域材を使用、民間棟に産直など民間企業が入り、賃料、固定資産税が納入されている。
- ★平成 26 年オガールベース完成…  
日本初のバレーボール専用体育館、  
ビジネスホテル、コンビニ、飲食店  
などが入る民間複合施設。地元産木  
材をふんだんに利用、エネルギー  
ステーションの地域熱供給を利用し  
ている。



★平成 26 年エネルギー  
ステーション完成…

オガール地区役場庁  
舎、オガールベース、住  
宅等へ地域冷熱供給を  
民間施設（紫波グリーン  
エネルギー㈱）で供給。

★平成 27 年紫波町役場庁舎完成… P F  
I 事業活用、町内木材活用によるコス  
ト削減を図る。エネルギーステーショ  
ンの地域熱供給を利用している。

★紫波型エコハウス…エネルギー、人材  
木材など地産地消の経済の循環を目指  
し、環境負荷、エネルギー消費を抑え  
たオガールタウン 57 棟を分譲。

★紫波町農林公社…木質燃料用チップ製  
造供給、間伐材の受入・搬出等町の委  
託事業。

★木質バイオマスエネルギーの利用…ペ  
レットストーブ導入 1 台 2 万円助成。

◎市政への反映等

平成 10 年、民間寄付金 2.68 億  
円で開業し、28.5 億円で土地を購  
入後、未使用であった。21 年から  
オガール紫波㈱を設立補助金に頼  
らない公民連携の町づくりを進め  
た。想像に余る素晴らしい事業で  
あり、当二本松市においても多方  
面の事業に採り入れるべきと思わ  
れた。

例えば、今、進めようとしてい  
るパークゴルフ場建設には、民間  
手法（P F I）も取り入れたり、

| 紫波型エコハウスの基準 |  | サポートセンターの値                          |
|-------------|--|-------------------------------------|
| 紫波木材の使用     | 使用する木材の総量<br>80%以上紫波産木材  | 100%                                |
| 年間暖房負荷      | 床面積 1 m <sup>2</sup> 当り年間暖房エネル<br>ギー消費量 48kwh/(m <sup>2</sup> ・年)以下      | 45.14keh/(m <sup>2</sup> ・年)        |
| 相当隙間面積      | 床面積 1 m <sup>2</sup> 当り相当隙間面積<br>0.8 c m <sup>2</sup> /m <sup>2</sup> 以下 | 0.3c m <sup>2</sup> /m <sup>2</sup> |

紫波型エコハウス内部



エコハウス屋根・外壁断熱材

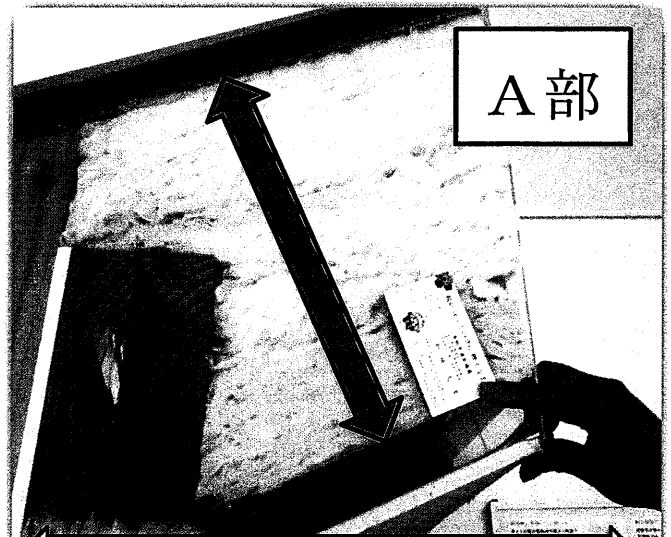


民間企業や市民の資金提供など民間活力を大いに活用すべきである。

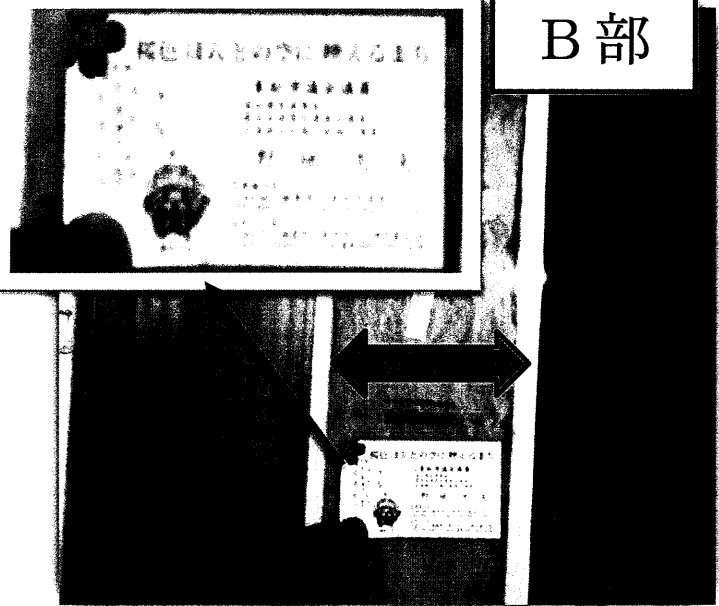
社会が縮小し需要が縮んでいく中で公共が投資したからといっても、民間がついていくわけではないと思われる。今までは公共は作ることが目的であった。儲かりもしない事業を公共が率先して行っていた。民間は儲けることが目的であった。儲からない事業に民間は投資をしない。今後は地方財政が縮小する中、公共民間より先んじてしっかりと稼げるも投資をしなければならない。稼げる投資こそ本当の地域活性化に寄与すると考える。

補助金に依存して失敗する公共事業は自治体財政を長期にわたり蝕むことになる。建物のライフサイクルコストは総工費の約4倍から5倍といわれている。20億の建物の半額を補助金としても、維持しつ続けるためには約100億分を地元で払う自治体負担となる。こういう負担を増やしたら、本当に公共がやらなければならない福祉のサービスにお金がまわせなくなる。

二本松市においても、既存公共施設の民間払下げや民間運営を積極的に進める、民間活力採用にもシフトを変える必要な時と考える。稼ぐインフラ、身の丈に似合った規模で造り、稼ぐ仕組みをキチンと考える必要があると考える。



エコハウス屋根裏断熱材厚=28 cm



エコハウス外壁断熱材厚=10 cm

オガールプロジェクト土地利用手法

|          | 手法     | 特徴   |
|----------|--------|------|
| 役場庁舎     | PFI手法  | 町所有  |
| オガールタウン  | 57戸を分譲 | 個人所有 |
| オガールベース  | 民間事業公募 | 土地賃貸 |
| オガールプラザ  | PPP手法  | 土地賃貸 |
| フットボール場  | PPP手法  | 土地賃貸 |
| エネステーション | 民間事業   | 土地賃貸 |
| ガール広場    | 公共事業   | 町所有  |

(別紙1-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市 政 刷 新 会 議

氏 名 野 地 久 夫

○ 月 日 令和元年8月23日

○ 場 所 岩 手 県 滝 沢 市

○ 内 容 第 1 次 滝 沢 市 総 合 計 画 について

○ 視 察 ・ 研 修 の 感 想

「住民自治体日本一の市」を  
キャッチフレーズに地域住民と  
連携した取り組みを行っている。

盛岡市のベットタウンとして、  
大学、短大5校とIPU施設等立  
地に若者が多いまちで、若い世代  
と連携した総合計画の取組に感動した。



滝沢市役所前にて

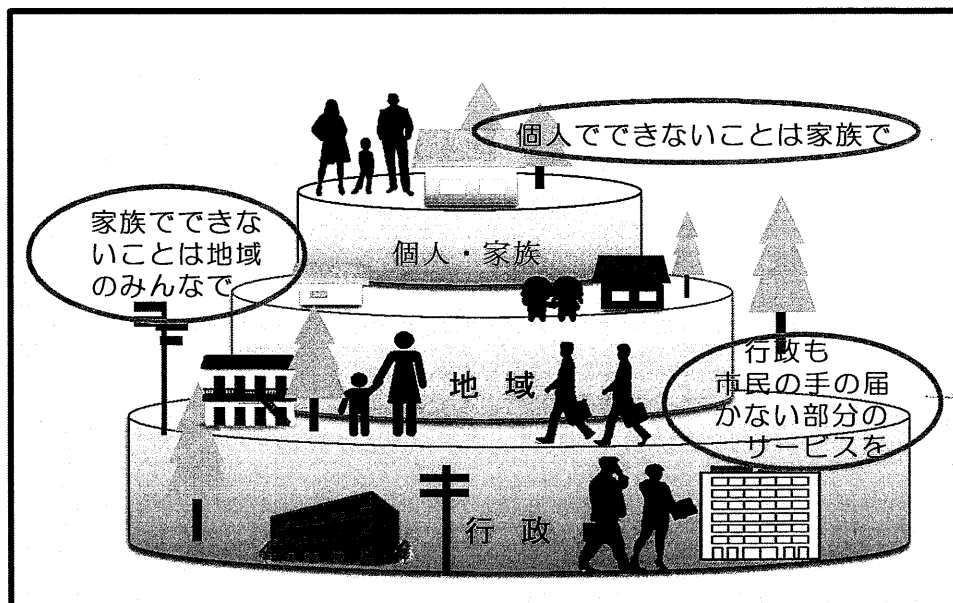
○ 視 察 ・ 研 修 の 成 果、市 政 へ の 反 映 等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

滝沢市は、市民主体の地域づくりを行い市民がより住みやすい生活をおくるための基  
準を明らかにし、安心して暮らせる環境を維持する方針を示す市民が目指す滝沢市の姿  
を実現する第1次総合計  
画を平成27年度纏めた。

滝沢市のまちづくりの  
目標を「幸福感を育む環  
境づくり」と定め、市民  
みんなで進め、行政がサ  
ポートするとした。

◎幸福感とは…心身の健康  
のうえ、家族・友人など  
の関係がよく保たれてい



「みんなが思いやりを持ち、幸せに暮らせる地域を全員で作る」目標を



ること…人との繋がりをもって暮らせることで「幸せ」を実感…「心の豊かさ」の社会づくりが必要…思いを共有する「人との繋がり」…「社会関係資本」

◎幸福感を育むとは…社会関係資本を深め住民自治に繋がる多様な活動・域別活動を共有・地域の将来像の共有・地域の宝物の発見・地域情報と地域課題の共有・幸福感を育む市民の行動と活動

◎環境づくりとは…生かす（恵まれた自然環境を身近に感じ、暮らしに生かす）  
支え合う（互いに支え合い、人との触れ合いが生活に潤いを与え）  
輝く（皆が健康づくりに取組、一人一人が輝き安心して暮らせる）  
暮らす（安全で快適な暮らしが実感でき、皆で取り組む）  
学ぶ（子供から高齢者まで夢を抱き、夢に向かって互いに学び合い、成果を生かせる）  
働く（雇用環境が充実し、皆が生き生きと働けるまち）  
受継ぐ（次世代に伝統と文化を受継ぎ、故郷に愛着を持てる）  
集う（地域と世代を超えて集い、人との関わりに幸せを実感して地域づくりができる）

◎継続して続けている滝沢地域社会アンケート調査

- ・若い世代は自由な時間や友人関係が高い、一方、地域コミュニティ値が非常に低い
- ・高齢世代は微細防犯や利便性など、生活環境に関する値が高い、

◎方針展開（政策方針書）

①政策の実現状況を明らかにする。

- ・計画ビジョン（政策実現の姿）
- ・政策目標値の達成状況
- ・政策を構成する基本施策及び目標値の達成状況

②政策の実現に向けての状況認識する

- ・政策進捗状況の進捗状況分析
- ・政策の実現に影響する社会環境変化

③政策の実現に向けての取り組みを決定する

- ・政策達成（実現）に向けた基本計画期間内の取組と方針
- ・基本計画内の取組と方針のうち、令和元年度の重点課題
- ・基本計画内方針及び令和元年度重点課題に基づく優先順位の考え方
- ・書簡基本施策別事業費計画表

④政策の実現に向けての人事マネジメントを考える

- ・基本計画内方針及び令和元年度重点課題に基づく人員体制の考え方
- ・基本施策別における人員体制に関する課題

◎タキザワコレカラカイギ…「これからも」滝沢市を楽しく、幸せなまちにしていくなために、何が大切で何が必要なのかを考え、語り合い「これから」の滝沢市の色を出し、活動する、まちづくりのアイデア創造と実現の場として開催している。

丹 米 ザ ワ コ レ カ ン  
カ イ ギ カ ン

- ・滝沢市を知ってもらう
- ・滝沢市のこれからの方向、カラー、課題現状を知る
- ・「幸せ」をベースに、滝沢市がもっと良くなるアイデアを考え、発信・共有する
- ・若い世代の幸せや地域を考えるきっかけとする
- ・人との繋がりを広める
- ・オープンな対話の場を目指す

広く約40代以下のかたの「これから」会議を開催している。



滝沢市ユルキャラ  
ちやくぽん

### ◎市政への反映等

滝沢市の研修で学ぶべきものは、住民主体のまちづくりだ。それは住民が「地域は、地域みんなで作る」という考えであること。「チャグチャグ馬コ」で受け継がれているのは、地域の発展に貢献してきた馬への感謝を表すもので、そのような地域だからこそ「地域は地域で作る」という考えが醸成されたのでは。若い皆さんにわかりやすいイラストのパンフレットを作成、理解を深めている取り組みは、本市でも参考にすべきだ。

「幸福」をキーワードとし総合計画の役割を地域住民が「幸福」になることし、計画と市民生活が身近なものに、市民のものに考えられる。この取り組みも本市でも参考にすべきだ。職員の理解や努力だけでなく、市民の強い協力があったからこそ総合計画が早く完成したものと、説明から伺われた。

今後8年かけて臨むと言う事業、市民の「幸福」は、まだ半ばだがぜひ叶えてほしい。本市にとっても地域住民の「幸福」実現は同じである。ぜひ滝沢市には手本を示してほしい。再度その研修に行きたい。活気ある実現するための総合計画に感動させられた。



(別紙1-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政刷新会議

氏 名 佐藤運喜

○ 月 日 令和元年8月22日

○ 場 所 オガール企画合同会社

○ 内 容 オガールプロジェクトについて

### ○ 視察・研修の感想

岩手県紫波町は、JR紫波中央駅前の市役所を中心に10、7haの都市整備計画を平成21年度よりまち人OGAL「オガールプロジェクト」として始める。

計画は、平成元年より促進会議発足、その後、民間や町民から2、68億円の寄付を元手に平成10年3月紫波中央駅が営業開始。28、5億円で周辺の土地を取得したが、部分的に10年間未利用地もあった。フランス語の「ガール」

方言の「おがる」をかけて今後の成長を願い「オガール計画」として再起を図る。土地の中心に役場庁舎を置き保育園や広場、ホールや交流プラザ運動場などを集約した公用公益施設と民間活力の民間企業が一つになった素晴らしい施設と感じた。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

JRを柱に人口も面積も類似している当市と紫波町は県の中心部にあり公私ともに参考になる点が多々あった。基本的な相違点は、古来の城下街と開拓民による新都市であることが考え方や行動など発展の速度にも大きく寄与していると思われた。市長を中心に自由な発想と行動力、民間活力を利用した活気溢れる街づくりであり大いに参考にすべきである。中でも循環型まちづくりは、有機資源、森林資源を活かした暖房や堆肥等のエネルギーの循環、環境の循環保全に重きを置きオガール地区内で最大限に利用していることが効率的で素晴らしいと思った。

当市においての再生可能エネルギー利用の今後にも大いに参考にしたいが、土地地権者等の市民の同意、意識改革の方が難問ではないか。

(別紙1-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政刷新会議

氏 名 佐藤運喜

○ 月 日 令和元年8月23日

○ 場 所 岩手県滝沢市

○ 内 容 第1次滝沢市総合計画について

### ○ 視察・研修の感想

人口の日本一多い村「滝沢村」が日本経営品質賞受賞をかわきりに第5次村の総合計画と市町村合併に拍車をかけた。市の第1次総合計画へ村民周辺自治体の統一意思見解がまとまり、市への移行が進む。

市長の行政改革への熱い思いを組織へ浸透させ 市民参加と存在意義、内部改革を促進させ 市職員自ら変わる事を説明した。既存の施設を最大限に活かしてプラスアルファ 未来の市の在り方について議論を続け「満足」から「幸福」の計画、運動と誘導していく。

滝沢のちやぐちやぐ馬っこから25年 変わらぬ行政に危機感を覚え 継続してアンケート調査と議論を重ねて 市の総合計画を練り上げた。今後は、「タキザワコレカラカイギ」として オープンなテーブルの会議を続けていく。

まさに 当市も今がこの契機であり、昔取った杵柄にしがみつき 変革を求めない姿勢は、この滝沢を見習わなくてはならない。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

合併後の市の新しい第一次総合計画を「踏まえ 満足から幸福へ市民の多くが心身共にシフトチェンジできたかは、未知のところではあるが息の長いアンケート調査や住民との話し合いの場を多く設けるなど 見習う点が多々あった。情報発信「STUDAY」で若者、人材育成を図っている点は評価する。

(別紙1-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政刷新会議

氏 名 鈴木 一弘

○ 月 日 令和元年8月22日(～23日)

○ 場 所 オガール企画合同会社

○ 内 容 オガールプロジェクトについて

○ 視察・研修の感想

視察依頼が殺到している公民連携の地方創生モデルとして人口32,980人の街に年間80万人が訪れるようになっている

私は、行政でやろうとせず民間に委ねたほうがいい、と言ってきたつもりだが目的が違うからである、公共事業は作ることを目的として、民間は儲ける事を目的とするからである

人を呼び込み、交流人口を増やすのは民間にはかなわないと考えている  
オガールは、公共と民間が見事に融合していた。脱帽

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

少子高齢化による、人口減少は全国的な問題であると共に、本市に於いても例外ではなく、今後地方交付税や補助金、税収は減少していくのである

当然の事ではあるが、ランニングコストの掛かるものはより慎重に進めると共に行政としても、儲かる仕組みを作らなければいけないと考えるが

紫波町では、実施にあたり100回もの市民との意見交換を行ったようである  
本市でも、二本松城址前での観光拠点整備を行うが、本当に拠点となるのか？

また、公共事業として「作ることが目的」になっていないか？

それは、50年前の行政の継続であり失敗が目に見える

再考しなければいけない

(別紙1-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派            市政刷新会議

氏 名            鈴木 一弘

○ 月 日            令和 元 年 8 月 23 日

○ 場 所            岩手県滝沢市

○ 内 容            第一次滝沢市総合計画について

○ 視察・研修の感想

           「住民自治日本一」の活力ある地域実現で幸福感を実感できる行政

           口先だけではなく、本気で取り組んでいると思える、地域経営、行政経営

           前々市長の就任で行政とは「経営」であり住民は「顧客」であるという前提で

           行政改革を進め、ISO14001、ISO9001の認証取得、日本経営品質賞（地方自治部門）を受賞している

           幸福感に関するアンケートは、インターネットを含め毎年実施し、「住民参画」「行政参画」で進めている

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

           ISO14001、ISO9001の認証取得、日本経営品質賞（地方自治部門）への挑戦

           組織のフラット化（課長補佐制の廃止、部制の実施）

           管理職を職員投票で選考し、考えが合えば実施する

           幸福感のアンケートは、3,000人を対象に毎年実施

           「タキザワコレカラカイギ」というオープンな対話をする場所設けている

           市がもっと良くなるアイデアを一緒に考え、発信と共有をしている「30～40代」

           人口 55,314 人、市役所職員 308 人、高齢化率 24.34%

           ・市民に聞いて市民と共に考えて進めていく行政の在り方は本気を感じさせられた

           ・本市に於いても、事業を進める時には多くの市民にも、聞くべきであると思う

## 研修・視察報告書

会派 市政刷新会議

氏名 齋藤 徹

日時 令和元年8月22日

場所 オガール企画合同会社

内容 オガールプロジェクトについて

### ○ 視察・研修の感想

紫波町駅前の10.7hを中心とした都市整備を行う為に、公民連携基本計画を策定し平成21年度から事業がスタートしている。開発テーマとしては、①農村と都市が共生するまち②若者、高齢者、すべての人が希望を持ち、安心して暮らせるまち③人にも地球にも「やさしい」まち④優れたデザインの採用を掲げ、限られた空間で機能性・便宜性・デザイン性に富んだ街づくりがなされている。

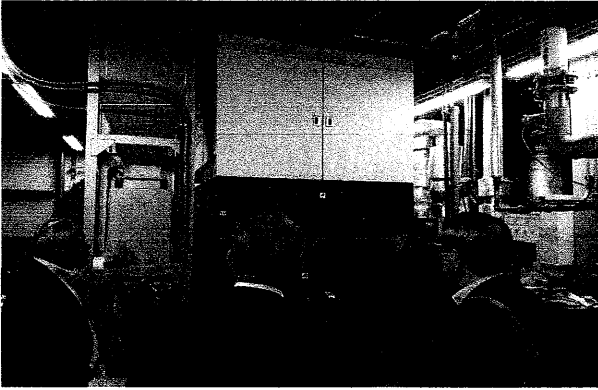
地元木材を活用したバイオマスボイラーを利用し、近隣住宅や公共施設に、冷暖房・給湯を行っている。バイオマス発電よりも安価な木材チップで行える利点があり感心した。

役場庁舎・医療機関・スポーツ施設・商業施設などを集約しており、地域人口は減少しているが世帯数は増加している。生活環境においては、類を見ない素晴らしさだと思う。

課題としては、買い物環境として町内に大手のショッピングセンターがあり施設内のスーパーと競合していること、中心市街地の商店街の再生には繋がっていないこと等が上げられる。



(町民の寄付により建設した紫波駅)



(木材チップを使うボイラー)

○ 視察・研修の成果、市政への反映など

施設内のテナント料の高さが店舗運営の負担になっているようだ。近年、近隣にも飲食店などが出店し施設内の既存店に影響が出ている。行政側としていずれ対応に迫られるであろう。公共施設等を建設する際は、将来のコンパクトシティ形成をふまえたうえで、集中や独自性は大事であると考えているが、一部の企業への集中を避け、既存の中小企業への指導等も必要だと考える。



## 研修・視察報告書

会派 市政刷新会議

氏名 斎藤 徹

日時 令和元年8月23日

場所 岩手県滝沢市

内容 第1次滝沢市総合計画について

### ○ 視察・研修の感想

滝沢市は、「幸福感を育む環境づくり」をめざし市民レベルの会合や意見を聞いて反映できるシステムに力を入れている。また、行政は「経営」であり住民は「顧客」であるを理念とし日本経営品質賞などへの取り組みも行っている。

昭和45年には1万人であった人口が平成12年には5万人に増加している。盛岡市のベットタウンという背景もあるが、市の政策の効果も大きいと考える。また、主要駅が無く、中心市街地と位置づける地域がなく、商店等の集中もないので、中心市街地活性化等の政策は少なく、本市との大きな違いがあると考えられる。



(市役所隣接のビックルーフ滝沢、ホール・会議室・図書館・産直市場・観光案内所・カフェがある)

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

滝沢地域社会アンケートを継続し、住民参画と職員参画に力を入れ、互いに

支援・協働できる体制を作っている。本市においても継続的に出来ないものかと考える

物質的な環境整備ではなく、満足から幸福に繋げる為に「心身の健康」「家族関係」「人とのつながり」に重きをおく政策は、本市においても取り入れるべきと考える。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政刷新会議

氏 名 平栗征雄

○ 月 日 令和元年8月22日

○ 場 所 オガール企画合同会社

○ 内 容 オガールプロジェクトについて

○ 視察・研修の感想

オガールとは何を意味するかが聞けた。紫波では成長を「おがる」という方言を用い、フランス語の駅「ガール」を組み合わせてオガールの。紫波市の発展は駅前開発の重点を置き、未来の発展持続性の駅前を託した。

紫波中央駅前公共用地は10.7haを取得し、旧有地開発を平成10年より開始し、駅直下若くは周辺に駅前から徒歩圏で無人駅を解消する。隣りの建物は「環境・循環PRセンター」で、応対した女性が今日の案内人だった。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

駅前開発では、行政と市民が連携して、住民、企業、行政との三者が一体となった事業計画・実施、評価から連携を来す。この方向性は大切と感じた。

駅前周辺の整備事業も、道路網の整備と並行して、地域の開発を中心企業の中で進められている。ハウスの悪い住宅建設が進められている。若い人達の意見は聞いて、入居者のニーズの交流を必要と以前から言っているが、行政指導が入りすぎると、まちづくりが難しくなるのではないかと感じた。

今後の諸々の事業を進めると、市民、企業、行政の三者が連携して進めたいと思います。

(別紙1-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政刷新会議

氏 名 平 泉 征 雄

○ 月 日 令和元年8月23日

○ 場 所 岩手県滝沢市

○ 内 容 第1次滝沢市総合計画について

### ○ 視察・研修の感想

滝沢市の目標は「幸福感を育む環境づくり」。  
市民一人ひとりが思い込みに持ち、幸せに暮らせる地域を全員でつくり出す活動(住民自治)を進めること。これを実現するためには、市民一人ひとりで地域づくりを進め、それを行政がサポートしていく関係づくりが大切。  
自分だけが考えるのではなく、人々とのつながりを通じて「幸福感を皆で共有すること」を目標とし、地域別計画つくり地域に合った住民自治を育むことと感じた。地域ごとの環境の違いがあり、話し合いをする組織づくりが大切と思った。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

滝沢村は合併時1万人だったが、昭和、平成と合併するにつれて、滝沢村時代の各地区ごとにおおむねまちづくり委員会を設置し、地区ごとのまちづくり方針をつくった。①地域の将来像 ②まちづくり方針 ③分野ごとの方針 ④マップ作成。人口はH31.4月で55,314人、職員数308人(注)。  
平成11年係制廃止、H14年組織のフラット化のため課長補佐制廃止し部制をスタート。H15年収入役廃止、H16年管理職を職員投票で選挙方針展開実施。H22年市政の50%を取り組む「住民自治日本一の市を目指して」、H25年市政施行。滝沢市は取り組む住民アンケートを毎年実施。年配者から若い人への参加普及かけ。高齢世代と若い世代の考えを理解するためアンケートは有効と思う。  
(予算規模は17,630,000千円(平成31年度一般会計当初予算))

(別紙1-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政刷新会議

氏 名 佐藤 源 市

○ 月 日 令和元年8月22日

○ 場 所 オガール企画合同会社

○ 内 容 オガールプロジェクトについて

### ○ 視察・研修の感想

- ① 経過 平成19年度より公民連携による紫波町PPP可能性調査の後の施設整備工
- ② 特徴: JR紫波駅改修事業と市民のこころをこめて、新駅整備に、駅前町有地のほか都市整備事業により、役場庁舎、ホール、スポーツ専用施設(ドームボール、フットボールコート)を開設他、多くの町民の憩いの場整備
- ③ 計画性、デザインラインを決定し、美しい街並み、環境型まちづくりの本質の活用を図る
- ④ 概算約470、国庫、民有、13,800㎡の敷地、(駅前)駅前地区 複合利用、施設へ供給し、以上のことから長期的な計画での実施が、各部門に見受けられ、将来への展望が、益々、広がっている。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

紫波町のように地域経済を、人口減少等対策を著実に実施してあり、成果が表れている。

施設整備計画をする場合、各方面の意見を取り入れ、将来にわたって構想計画、実施するべきであり、そのよきと事業費では何ら負担を、と見られる。

今後の人口減少等については全国的に約19%と予測され、人口減少が、おそれる中、同地域では特徴を生じた計画の作成が、必要であり、施設等に於いては、市民、身や、都市に選定すべきである。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政刷新会議

氏 名 佐藤 源 市

○ 月 日 令和元年 8 月 23 日

○ 場 所 岩手県滝沢市

○ 内 容 第 1 次滝沢市総合計画について

○ 視察・研修の感想

経過 住民自治の第一を旨 孫令計画を平成27〜34年度へ策定し  
 目標 市民主体の地域づくり、幸福度の生活環境づくり  
 共有 市民が担う地域別計画と公共が担う市全域全体計画へ  
 移行し市民の生活の最低水準と最低限度の生活環境基準を満たす  
 以上のことから、公共と市民が常に同一方向から生活環境全般  
 に取り組まれている、盛岡市のパートナーはあるか自らの力で市の  
 活性化、人口増を生み出し、これぞこの地域が幸福度と味である  
 非常におもしろい内容であった。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

滝沢市の自治体協会の基本は、農業林業畜産と一次産業を主体とし、  
 近年は住民自治の機会を地域であり、今更には若者の就業機会を  
 地域全体が将来像も自らの手で作り上げている  
 隣接する盛岡市は早稲作地であり、若くは食料の供給と労働力の  
 供給と密接な関係があり農業構造へ強き結びつきがある  
 それ以外、自らの力で、地方自治を確立されていることが、経済力向上  
 人口増へ大きく繋がっているのではないか  
 通り一辺の計画では 地域へ力か生んでいく状況がある、  
 地域に特徴のある産業を生み出し計画を策定すべきであると  
 感じました。